



地域研究集会

2020 年度九州沖縄地区合同シンポジウム（予告）  
南西諸島近海における大気・海洋・生態系

**日 時**：2020 年 12 月 11 日（金）10：30～17：30（予定）

**場 所**：琉球大学

**共 催**：日本海洋学会西南支部，日本海洋学会沿岸海洋研究会

**コンピナー**：伊藤耕介（琉球大学），秋田雄一（沖縄県水産海洋技術センター），碓氷典久（気象研究所）

基調講演：1～2 題，40～50 分程度

一般講演：8～10 題，1 題 15～20 分程度（講演者数により変更する場合があります）

入 場 料：無料

**開催趣旨**：南西諸島は，広大な海の中に浮かぶ数多くの島嶼からなる地域である。薩南諸島・沖縄諸島のほか，宮古列島・八重山列島からなる先島諸島，大東諸島，尖閣諸島で構成されており，そのいずれも，周囲を取り囲む海洋に大きな影響を受けている。近海には黒潮が流れており，亜熱帯に位置することから，1 年を通じて比較的温暖な気候に恵まれている。また，地域特性として，サンゴ礁や多様な魚種がみられることも特徴のひとつである。島に暮らす人々は古くから海の恵みを得つつ，ときに台風などに伴う極端な気象・海象に苛まれながら生活を営んできた。

近年，地球規模の気候変化が徐々に進行しており，南西諸島近海でも海面水温の上昇や海洋酸性化による悪影響が懸念されている。島嶼部の気温や空気中の水蒸気量は海面水温に鋭敏であるため，将来的には，熱中症患者や豪雨の発生頻度も増えることが予測されている。また，水温の上昇や海洋酸性化が，モズクに代表される藻類や魚類の地理的な分布の変化，養殖業における生産管理の困難さ，サンゴの白化や死滅などを引き起こすため，南西諸島近海における生態系とそれに連なる人間社会は大きな影響を受けると考えられる。

上述の例に代表されるように，南西諸島近海における研究テーマには，大気・海洋・生態系などの諸分野にまたがったものが多い。そこで，各分野の専門家が一堂に会して議論をする場を設けることは，各個人が有益な知見を得て，研究を発展させるために重要だと考えられる。このような背景に鑑み，本シンポジウムでは，研究手法を問わず，この海域における大気・海洋・生態系の各分野の研究，それらの相互作用の研究，及び，基礎研究に関する発表を募集する。この機会が，多くの分野の研究者の交流を促し，南西諸島近海における諸現象の理解やその応用に資することを期待する。なお，新型コロナウイルス感染症対策として，現地参加に加えてオンライン参加を認めるが，件数が想定を大きく上回った場合には，テーマへの関連性が高い講演・現地講演を優先する。状況によっては，全体をオンライン開催とする等の可能性があることにご留意いただきたい。

**一般講演の募集要領**

◇締 切：2020 年 10 月 16 日（金）必着

◇必要事項：講演題目，共著者を含む講演者所属・氏名，電話番号，E-mail アドレス

・一般講演の採否結果は，10 月末までに通知します。テーマと関連性が深いものを優先します。

・聴講のみの場合でも参加登録が必要です。



◇申込先：<https://forms.gle/yg7wL2ETRjv2j2Y99>

◇担当者：〒903-0213 沖縄県西原町千原1 琉球大学理学部物質地球科学科地学系 伊藤耕介  
電話: 098-895-8573, FAX: 098-895-8552, E-mail: itokosk@sci.u-ryukyu.ac.jp

#### 講演要旨

◇締切：2020年11月13日（金）必着（送付先は itokosk@sci.u-ryukyu.ac.jp）

◇書式：日本海洋学会の研究発表大会時の講演要旨に準ずる。

- ・ワードプロセッサを用い、A4判用紙2枚以内。
- ・マージンは、上下に30mm、左右に20mmで設定。
- ・研究題目、発表者、所属、キーワードを上段（30mm程度）に記入。
- ・本文は2段組が望ましい。